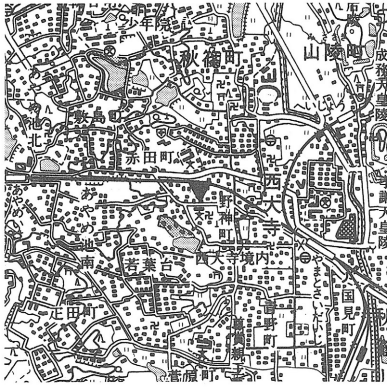


# 奈良・平城京跡 (3)

- 1 所在地 奈良市西大寺宝ヶ丘
- 2 調査期間 第五三二次調査 二〇〇五年(平17) 五月～七月
- 3 発掘機関 奈良市教育委員会
- 4 調査担当者 久保邦江
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代・奈良時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(奈良)

調査地は、平城京の条坊復元では右京北辺四坊三坪の東南隅にあたる。この地は鎌倉時代末の『西大寺与秋篠寺相論絵図』に「本願天皇山莊跡」と記されている。西に隣接する六坪との坪境に相当する場所に、絵図に描かれている中島を有する池が現存することから、三坪・六坪の二町分の宅地利用が考えられ、併せて称徳天皇山莊跡と推定されている。

検出した遺構は、古墳時代の溝二条・土坑二基、奈良時代の溝二条・井戸一基・土坑二基・掘立柱建物二棟・掘立柱塀三条である。奈良時代の二条の溝は、西四坊間東小路西側溝と雨落溝である可能性が高い。発掘区東端は幅一・五m以上、長さ二m以上、深さ〇・八mの範囲が後世に掘削されており、遺構面は破壊されている。木簡は、この後世の掘削部分の底面から出土した。掘削は奈良時代以降に行なわれているが、遺物が極めて少量で掘削の時期を特定することはできない。

## 8 木簡の积文・内容

- (1)  (121)×21×6 039

上端は切り折り調整による加工で、左右両辺は削りで整形している。材の上端の左右に切り込みを入れる。下端と上端左部は欠損している。木簡の形態からみて、荷札であると思われる。なお、积読にあたっては、奈良文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。

(久保邦江)

